慢性糸球体腎炎

糸球体が炎症を起こし、**血尿**や**蛋白尿**などが出現する病気を糸球体腎炎と呼びます。そのうち、血尿や蛋白尿が長期間持続するものを慢性糸球体腎炎といいます。**急性糸球体腎炎**を発症後 1 年以上にわたって血尿や蛋白尿などの尿所見の異常や**高血圧**などの症状が持続する場合、または、発病時には明らかな腎炎症状がなくても 1 年以上尿所見の異常が持続する場合も含まれます。慢性糸球体腎炎は 1 つの病気ではなく、**IgA 腎症**や**紫斑病性腎炎**、**膜性腎症**や**膜性増殖性腎炎**などさまざまな病気の総称です（表 1）。慢性糸球体腎炎の正確な原因はまだわかっていませんが、それぞれの病気はいずれも免疫システムの異常によって発症すると考えられています。症状は、血尿や蛋白尿などの尿異常のほか、**高血圧**、めまい、肩こり、**むくみ（浮腫）**、頭痛、全身倦怠感などがみられます。正確な診断には**腎生検**が必須であり、蛋白尿が持続する場合や**ネフローゼ症候群**を呈するような場合には腎生検が行われます。治療の基本は**食事療養**や**薬物療法**であり、むくみが強い場合は、体の中の水分や塩分の排泄を促すために利尿薬が使われることがあります。また高血圧がある場合には降圧薬を使用し、血圧の維持に努め、症状の悪化を防ぎます。生活の上では、高度の蛋白尿がみられる場合や高血圧がみられる場合には、激しい**運動**は避ける必要があります。**IgA 腎症**などで重症の場合には**ステロイド薬**と**免疫抑制薬**、降圧薬によるカクテル治療が行われます。

表 1 慢性糸球体腎炎の原因疾患

IgA 腎症
紫斑病性腎炎
膜性増殖性糸球体腎炎
C3 腎症
膜性腎症
微小変化型
巣状分節性糸球体硬化症
Alport 症候群
その他